

“動物と木々に囲まれていた人間の最初の動きは、それらの動物と木々の存在を理解し、自分自身の存在を否定することであった。  
 人体は、操り人形、風と草の玩弄物のように、人体を絶え間なく解体する塵の塊のように現れる”  
 —G.バタイユ(江澤健一郎訳)『ドキュマン』河出書房新社、2014、p.282

土の中を生きる雌雄同体のミミズ/ミミズにとって排泄は労働/消費は生産/人はミミズになれるか?

“土偶坊 ワレワレ(ハ)カウイフ モノナリタイ”  
 —宮沢賢治「雨ニモマケズ手帳」より

“(いゝえ、それでも 8(エイト) γ(ガムマ) e(イー) 6(スイツクス) α(アルファ) ことにもアラベスクの飾り文字”  
 —宮沢賢治「蠅虫(アンネリダ) 舞手(タンツエーリン)」『春と修羅』(1924)より

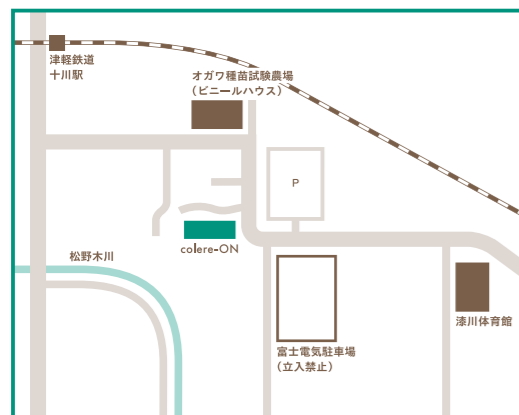
人間・社会・自然の諸力を再配分するための場—生態圏—堆肥場としてのミュージアムは可能か?

“それは君 大変おもしろい 君 ひとつやってみたまへ”  
 —青森県平内町出身の「ミミズ博士」畑井新喜司(1876-1963)の言葉

colere-ON (これるおん)

五所川原市漆川鍋懸147-2 Tel. 0173-26-1021

- 津軽鉄道十川駅から徒歩約5分
- 津軽自動車道五所川原I.C.から車で約7分



中泊町博物館

中泊町中里字紅葉坂210 Tel. 0173-69-1111

- 津軽鉄道津軽中里駅から徒歩約15分
- 津軽自動車道五所川原北I.C.から車で約25分



ELM

五所川原市大字唐笠柳手藤巻517-1 Tel. 0173-33-4000(代表)

- JR五所川原駅から徒歩約20分
- ※駅前からELM行き120円バスの運行あり
- (青森、黒石市街から)津軽自動車道五所川原I.C.から車で約2分
- (弘前市街から)藤崎三差路を経由し国道339号線から車で約15分



青森県立美術館(お問合せ先)

青森市安田近野185 Tel. 017-783-3000

- JR新青森駅から徒歩約10分 ●青森空港から車で約20分
- 東北縦貫自動車道青森I.C.から車で約10分
- 【八戸方面から】青森自動車道青森中央I.C.から車で約10分
- 青森市営バス 青森駅前6番バス停から三内丸山遺跡行き「県立美術館前」下車(所要時間約20分)
- ルートバスねぶたん号 新青森駅東口バス停から「県立美術館前」下車(所要時間約10分)

# 美術館 堆肥化計画

## 2021

Museum Composting Project

地域・アーティスト・美術館の協働による  
 【堆肥場】としての  
 ミュージアムをもとめて

### 旅する ケンビ

2021年10月2日(土) - 11月3日(水祝)  
 会場=ELM  
 営業時間=10:00-20:00 会期中無休 観覧無料



2021年11月6日(土) - 12月12日(日)  
 会場=中泊町博物館  
 開館時間=9:00-16:45 (入館は16:15まで)  
 休館日=毎週月曜日、第4木曜日、祝日  
 入館料=一般200(100)円、高大生100(50)円、小中学生50(30)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金



### 耕す ケンビ

津軽編：みみずの足あと  
 2021年10月2日(土) - 12月12日(日)  
 会場=colere-ON(これるおん)  
 鑑賞可能な時間=10:00-17:00 会期中無休 参加無料



成果展示

2022年2月5日(土) - 4月17日(日) 予定  
 会場=青森県立美術館  
 開館時間=9:30-17:00 (入館は16:30まで)  
 休館日=毎月第2、第4月曜日を予定  
 観覧料=一般510(410)円、高大生300(240)円、小中学生100(80)円  
 ※( )内20名以上の団体料金 ※心身に障がいのある方と付添者1名は無料。



参加作家  
 小田香(これるおん)  
 Colere-ON x 弘前大学教育学部有志  
 アート・ユーザー・カンファレンス(アート・ユーザー・カンファレンス)

主催=青森県立美術館  
 特別協力=社会福祉法人あーると  
 後援=東奥日報社、陸奥新報社、五所川原市教育委員会、中泊町教育委員会  
 展示監修=西澤徹夫建築事務所

青森県立美術館

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、計画内容が変更されることがあります。ご鑑賞・ご参加の際は事前に詳細を美術館ホームページ[www.aomori-museum.jp]等でご確認ください。

# 美術館 堆肥化計画

青森県立美術館で新たな地域アートプロジェクト「美術館堆肥化計画」がはじまります。県立美術館が開館して今年で15年。この辺りで地域とのさらなる関わり方を探るべく施設を飛び出し、津軽・南部・下北の県内三地域で美術館活動や現代アートを身近に感じていただく事業を始めることにしました。今後三年かけて各地域にお邪魔し、地域施設や団体のご協力のもと、県立美術館の特徴的な建築やデザインに地域要素を組み合わせて紹介するプロモーション展示「旅するケンビ」と、地域を拠点に現代アーティストの作品制作等を行う「耕すケンビ」を二本立てで展開、各年度最後に県立美術館で成果展示を開催します。

「美術館堆肥化計画」では、アート体験を従来の限定された空間から解放し、生活と連続した中に置きなおすことで、美術館が地域の中で様々な活動を創出する「肥やし」となることを目指します。すなわち「旅するケンビ」で美術館的な体験を、「耕すケンビ」で現代アート体験を地域に広げる本計画において、美術館は堆肥が作物の成長を促進させるがごとく、地域の人やアーティストが互いの存在を分解・成長させあう仲立ちとしての役割を担う。そうして生活も芸術も、それらを包みこむ自然も、一切が混ぜこぜになった場所から、人が世界と生き生きと関係するための術(アート)を地域・アーティスト・美術館が協働で計画していく事業です。

計画進行中、各会場にて参加作家らによる**ワークショップ**や**イベント**を予定しています。参加方法など詳細は美術館ホームページをご覧ください。



[www.aomori-museum.jp](http://www.aomori-museum.jp)



県立美術館プロモーション展示

## 旅するケンビ

県立美術館の魅力はなんといっても建築とデザイン、それらの要素を活かして展示されるマルク・シャガール《アレコ》をはじめとするコレクション作品の数々。今回の「旅するケンビ」では、そんな県美を構成する一部—ネオンサイン、制服、コレクションに関連する映像や写真—に地域ゆかりの資料(偽石器や開拓農家・竹内正一氏による十三湖干拓の記録写真)を組み合わせた展示を津軽エリア内に持ち込み、様々な会場で紹介します。



建物に設置されたネオンサイン



「ミナベルホネン」による制服



偽石器—石核(仮) 五所川原市金木にて採集(2021)

## 耕すケンビ

### 津軽編：みみずの足あと

津軽の人びとの日々の営みを、人知れず土を肥えさせる「みみず」のそれに重ね合わせ、その軌跡—「足あと」を手がかりに「耕すケンビ」を行います。県立美術館とラテン語の「colere(耕す)」を語源とする福祉作業所兼ゲストハウス・colere-ONが堆肥場のごとく混ざりあっていく様を紹介します。具体的には現代アーティストらによる作品の一部をcolere-ON周辺野外にてご鑑賞いただくほか、作品制作の様子をトークやレクチャー等の形で随時公開します。(新型コロナウイルス感染症拡大にともない施設内は現在、非公開としています。一般公開可能となった際には美術館ホームページ等でお知らせいたします)

### 小田香

津軽地方の風土的特質や、障がいのある方の芸術制作をはじめとする活動の現場のリサーチ等をもとに、立体作品や映像作品の制作を行います。立体作品がcolere-ON等で展示されるほか、映像作品は県立美術館での成果展示の中で紹介します。



制作中の様子「海岸で石を拾い磨く」 写真提供：小田香

おだかおりイメージと音を介して「人の記憶のありか」「人間とは何か」を探索するフィルムメーカー／アーティスト。1987年大阪府生まれ。米国ホリンス大学教養学部映画コース修了。2016年映画監督タル・ペーラ指揮によるfilm.factory修了(第1期生)。2015年ボスニアの炭鉱を主題とした映画『鉱ARAGANE』(2015)で山形国際ドキュメンタリー映画祭・アジア千波万波部門特別賞受賞。2019年ユカタン半島の洞窟祭を撮影した映画『セノーテ』で2020年大島渚賞受賞、芸術選奨新人賞受賞。映画制作と並行して、カメラを向けた土地や人とのつながりを保つための絵画をはじめとした作品制作を行う。主な展覧会に「特集 小田香 光をうつして—映画と絵画」(まなびあテラス、フォーラム東根 山形, 2021)等。https://www.fieldrain.net/

現代アーティストらの現地制作を主軸としたアートプロジェクト

### 成果展示

2021年度コレクション展第4期と同時開催。「旅するケンビ」展示の断片を再構成して紹介するほか、「耕すケンビ：津軽編 みみずの足あと」で展開されたcolere-ONでのアーティストによる制作作品、ワークショップや講演会の内容などを組み合わせて展示します。

An Art User Conference

## アート・ユーザー・カンファレンス

世界全体をミュージアムとして捉える「ジェネラル・ミュージアム」プロジェクトを実施。美術館での『作品』や観光地での『遺跡』とは異なる(通ずる)あり方としての『墓』を手がかりに津軽地方の風景を『発掘する』リサーチを作品として展開します。リサーチはウェブ上でのツアー・マップのような形で公開するほか、colere-ON野外での作品展示などの形で現実の空間上でも展開します。https://generalmuseum.wixsite.com/abcd



「ジェネラル・ミュージアム：墓」《月は地球の墓》等の設置プラン(2021)

2014年設立。ユーザーの声、橋本聡、松井勝正、木原進を中心に運営されるアートコレクティブ。作者や鑑賞者、批評家、キュレーターなどと異なる「user(使い手)」という立場から、既存の芸術概念の問い直しに基づくネオ・コンセプチュアルな作品やアートプロジェクトを展開。主なプロジェクトや展覧会としては、アースワークの先駆者である故R.スミソンを「作者」として「架空に使用」し、作品を展開した「宮城でのアース・プロジェクト—Robert Smithson without Robert Smithson」(風の沢ミュージアム, 宮城, 2015)。「過去」の事物と同じように「未来」の事物を芸術の資源として使用する「未来芸術家列伝IV:宇宙と貨幣」(S.Y.P Art Space, 東京, 2017)、「未来芸術家列伝IV:オーダーと第1次世界大戦」(青山|目黒, 東京, 2017)等。

これるおん

## colere-ON×弘前大学教育学部有志

colere-ON自体を創造的な活動体と捉え、施設・大学・美術館の三者協働により、colere-ONの日常と将来的な活動のさらなる充実化を準備する過程を制作展開とします。具体的には弘前大学教育学部の学生らが施設の将来像をスケッチ等で形にするほか、施設を紹介するリーフレットを、ワークショップ形式で制作します。



左：勝川氏 中央：塚本氏 右：大橋氏 整備中のグラウンドにて

colere-ONは10月2日プレオープン。福祉作業所兼ゲストハウス。子どもの放課後支援やグループホームの運営、強度行動障害などを抱える人々の支援を行う「社会福祉法人あーど」(代表：大橋一之)が運営。弘前大学教育学部からは佐藤光輝(デザイン)とその研究室の学生、勝川健三(園芸)、塚本悦雄(彫刻)らが参加予定。